

行事報告書(例会)

報告者: 永野 徹

行事名	「天王寺界限散策」
実施日時	2023年10月26日(木曜日) 10:00時～15:00 時 天候:晴れ
行先・場所	天王寺界限散策(大阪天王寺七坂と四天王寺散策)
主旨・行程	太平寺前～口縄坂～愛全坂～清水坂～清水寺～天神坂～安居神社～逢坂～一心寺～茶臼山…昼食…四天王寺散策～解散～四天王寺前夕日丘駅
参加人員	MNC23名、 他 ガイド3名 担当:永野 徹
(i)全般	不慣れな土地でもあり、朝の集合時間を少し早めに9:45と設定して10時からスタート。太平寺横(口縄坂)に集合して「1日全体行程・注意事項・グループ分け、ガイド紹介」等を終えて午前中の散策を開始。天王寺公園の一角、茶臼山(26m)で昼食を食べ、午後は例会担当者が案内して四天王寺境内を2時間弱散策して現地解散。
(ii)散策メモ	
(AM)	太平寺横、①口縄坂を上り詰めた所に上町台地生まれの作家・織田作之助の文学碑が有り「木の都」の一節が刻まれていた。この近辺は歴史的に信長の本願寺攻めに見られるように一向宗と対立が影響したのか殆どが浄土宗のお寺多く、しかも秀吉は異常時の対応策も含めて意識的にお寺を集中的に配置したらしい。続いて②愛全坂を上る。愛染坂の名称は聖徳太子が勝鬘経を説かれたところから勝鬘院とも呼ばれる。現在の愛染堂の金堂は江戸時代に秀忠が再建したもの。多宝塔は秀吉が再建したもので大阪市最古の木造建築物であるとのこと。愛染祭りで近辺の夏祭りの火ぶたが切られる。続いて③清水坂を上り、清水寺の舞台に到着。京都の清水寺から移した十一面観音を本尊とすることから新清水寺と呼ばれて「音羽の滝」を模した「玉出の滝」があり四天王寺金堂地下の青龍池へと繋がっているとの伝承。次いで安居天神(天満宮)へ通じる④天神坂に出る安居神社は大宰府へ左遷された菅原道真が暫く滞在して村人へのお礼に紋所の「梅鉢」の使用を許可したとのこと。境内には大阪夏の陣でここに陣を張り、討ち死にした真田幸村の像が建立されている。この神社の前の大通りが聖徳太子と物部守屋が仏法について議論したという合法四会(がっぽうがつじ)に近いことから⑤逢坂と名付けたとか。次に一心寺へ。法然上人がこの地へ招かれて日想観(西に沈みゆく太陽に向かって一心に極楽往生を願う)を収められたことが一心寺の名前所以。向かいの茶臼山(丘)へ。
(昼食)	茶臼山(天王寺公園一部)公園では昼食後トイレ休憩して「大阪夏の陣」の映像を見る。
(PM)	13時過ぎに、茶臼山公園を出て四天王寺へ向かう・四天王寺は法隆寺と同じく聖徳太子が創建された寺で本来は法隆寺と同じく全てが国宝であっても可笑しくないのですが、残念な事に自然災害と人災で何度と無く焼失して創建時建物等の原物が残っていない。昭和20年の大阪大空襲で完全に焼失したがS38年までにRC造の旧様式で再建された。石鳥居・西大門から入り中心伽藍(金堂・五重の塔・中門・講堂)を経て万灯院・南大門・聖霊院・天王寺鐘・番匠院・亀井堂・石舞台・六時堂・英霊堂へと例会担当がボランティアガイド以上に好評を得ながら四天王寺の歴史と伝承をガイドして散策を満喫しました。
(Ⅲ)感想	秋晴れの好天候に恵まれ聖徳太子時代の天王寺を知る上で最高の1日となりました。飛鳥時代は現在のように高層ビルや住宅群が無く、大阪上町台地から四周が開けて展望が素晴らしく、特に“なにわの海”に沈む夕日が感動的で西方浄土が連想されたと思われます。聖徳太子が創建された四天王寺は当時の渡来人が海から見ると一段と映えた景色ではなかったかと想像します。県外と言う事で参加者が少なかったのは残念。
(添付)	集合写真

○四天王寺中心伽藍 (R5.10.268)



○天王寺七坂・茶白山 (2023.10.26)

